

食味を重視した水稻準奨励品種「ヒカリ新世紀」および「ゆめそら」の栽培法

「ヒカリ新世紀」および「ゆめそら」は、収量を確保し玄米中蛋白質含有率を低く維持するために、5月下旬移植、栽植株数は坪60株程度、施肥はNkg/10aで基肥4kg・穂肥は幼穂1mm時に2kg・穂肥無施用が望ましい。

移植時期

両品種とも、5月下旬移植で、登熟歩合が高く収量が確保され玄米中蛋白含有率が低く維持されます。

栽植密度

両品種とも、坪60株程度で、収量・玄米中蛋白含有率は密植と同等です。

基肥N量

両品種とも、基肥N量は、Nkg/10aで4kgが上限と考えられます。

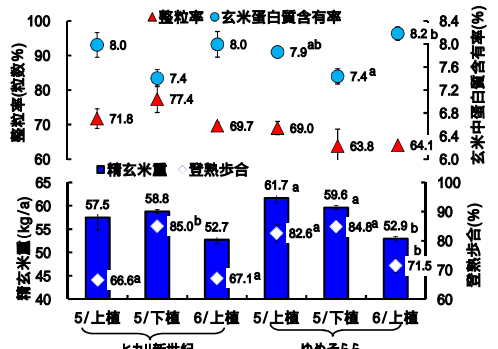


図1. 両品種における作期反応
 注1) 調査年次: 2008年, 調査場所: 鳥取農試
 注2) 基肥はNkg/10aで4-2-2(基肥-穂肥-穂肥), 穂肥: 幼穂1mm時, 穂肥: ①10日後施用
 注3) 登熟歩合はサタケ社製穀粒判別機RQ120A, 玄米中蛋白質含有率はニレコ社製NIRで測定した7.1に5.0を乗じて求めた。
 注4) 図中の垂直線は標準誤差(n=2)
 注5) LSD法により、同一品種処理間の異なるアルファベット間には5%の有意差、未表記には有意差無し

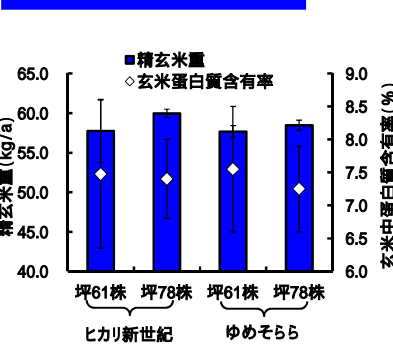


図2. 両品種の栽植密度による収量等の相違
 注1) 調査年次: 2009, 2010年, 調査場所: 鳥取農試
 注2) 玄米中蛋白質含有率はサタケ社製RTCA11Aで測定
 注3) 図中の垂直線は標準誤差(年次: n=2)

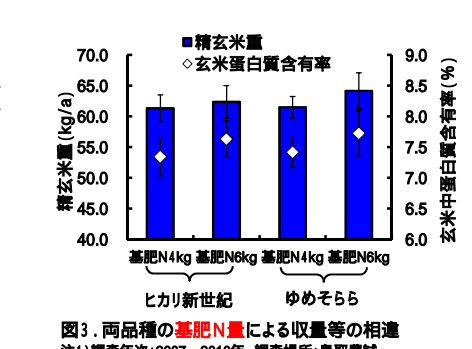


図3. 両品種の基肥N量による収量等の相違
 注1) 調査年次: 2007-2010年, 調査場所: 鳥取農試
 注2) 基肥N量: Nkg/10a
 注3) 玄米中蛋白質含有率は2007年: ニレコ社製NIR, 2008-2010年: サタケ社製RTCA11Aで測定
 注4) 図中の垂直線は標準誤差(年次: n=4)

基肥窒素量

基肥窒素4kgが2kgに比べて、幼穂形成期の葉色が高く玄米中蛋白質含有率がやや高い傾向であるものの整粒率は同等で収量が高い

穂肥 時期

幼穂1mm時が10mm時に比べて、収量および整粒率は同等で玄米中蛋白質含有率が低い

穂肥 施用

無施用が施用に比べて、収量および整粒率は同等で玄米中蛋白質含有率が低い

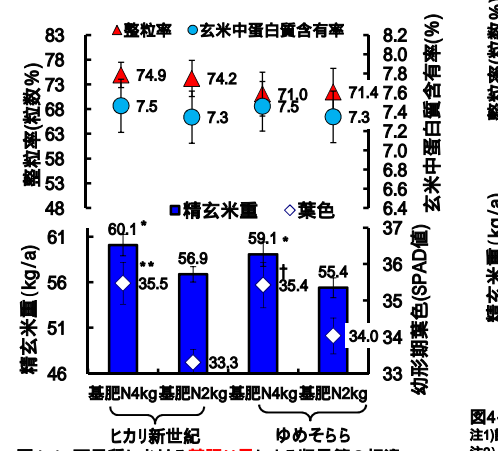


図4-1. 両品種における基肥N量による収量等の相違
 注1) 調査年次: 2006, 2009, 2010年, 調査場所: 鳥取農試
 注2) 図中の垂直線は標準誤差(n=10)
 注3) 玄米中蛋白質含有率は2009, 2010年はサタケ社製RTCA11Aで測定
 注4) LSD法により、同一品種処理間の有意差: **1%, *5%, †10%以下共通

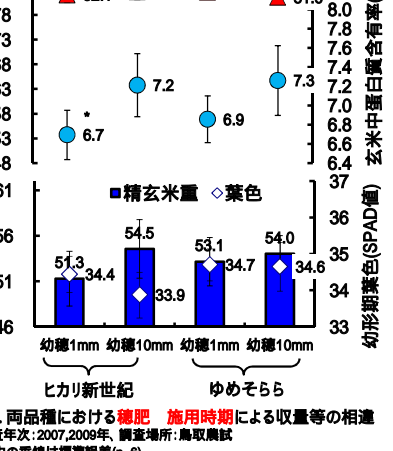


図4-2. 両品種における穂肥 施用時期による収量等の相違
 注1) 調査年次: 2007, 2009年, 調査場所: 鳥取農試
 注2) 図中の垂直線は標準誤差(n=6)
 注3) 横軸のmm数は第1穂肥施用時期の幼穂長

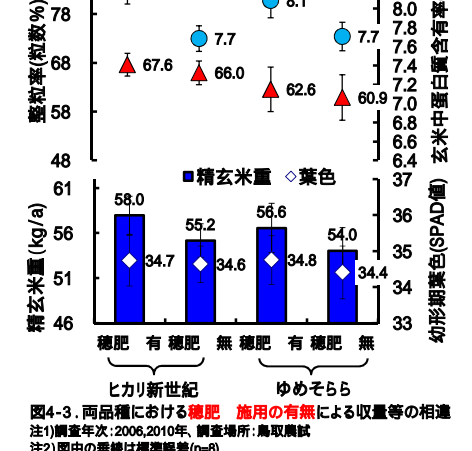


図4-3. 両品種における穂肥 施用の有無による収量等の相違
 注1) 調査年次: 2006, 2010年, 調査場所: 鳥取農試
 注2) 図中の垂直線は標準誤差(n=8)
 注3) 穂肥はNkg/10aで有2kg, 無0kg

両品種の整粒率70～75%の時期

ヒカリ新世紀

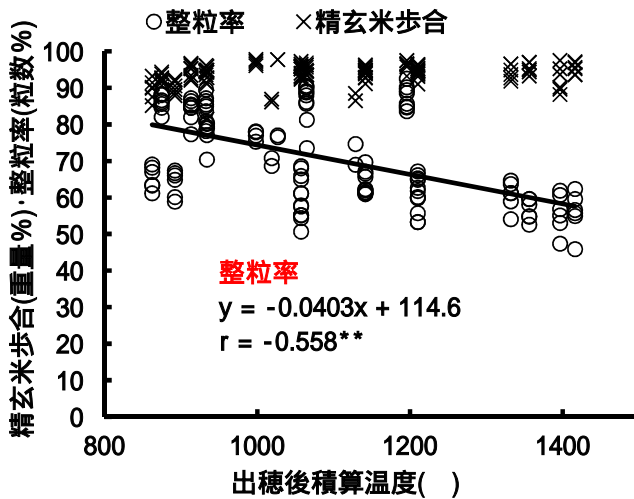


図5-1「ヒカリ新世紀」における出穂後積算温度と精玄米歩合および整粒率との関係
 注1)調査年次:2006～2010年、調査場所:鳥取農試
 注2)n=130

「ヒカリ新世紀」:整粒率70～75%の時期
 出穂後積算温度:約983～1,107
 精玄米歩合:約93～94%

ゆめそらら

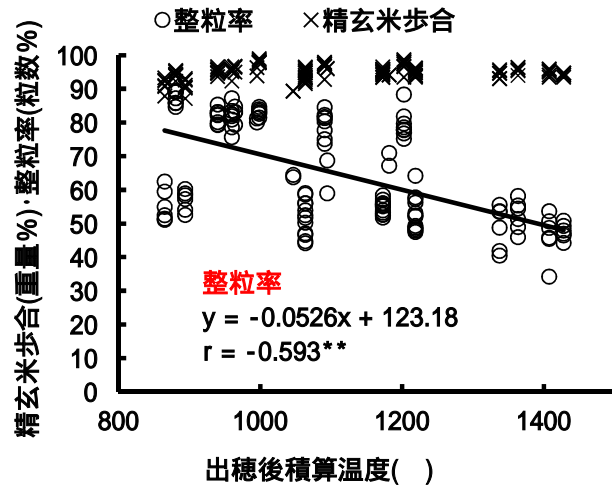


図5-2「ゆめそらら」における出穂後積算温度と整粒率との関係
 注1)調査年次:2006～2010年、調査場所:鳥取農試
 注2)n=130

「ゆめそらら」:整粒率70～75%の時期
 出穂後積算温度:約916～1,011
 精玄米歩合:約94～95%

ヒカリ新世紀:刈取適期穂と籾



ゆめそらら:刈取適期の穂と籾



平坦地(農業試験場)における、移植時期は5月上旬～6月上旬の、栽植密度は18.4～23.9株/m²の試験結果である。

両品種とも出穂期の葉色と玄米中蛋白質含有率との間には高い相関関係が見られることから(ヒカリ新世紀:r=0.951**, ゆめそらら:r=0.842**), 出穂期の葉色をコントロールするために肥沃度の高いほ場では穂肥窒素量に留意する。

問い合わせ先 : 鳥取県農業試験場 作物研究室・環境研究室 電話 : 0857-53-0721

本書から転載複製する場合には必ず上記に許可を受けて下さい。